

161
348

櫻井傳三著

(非賣品)

天然痘豫防注意

兼種痘者之注意

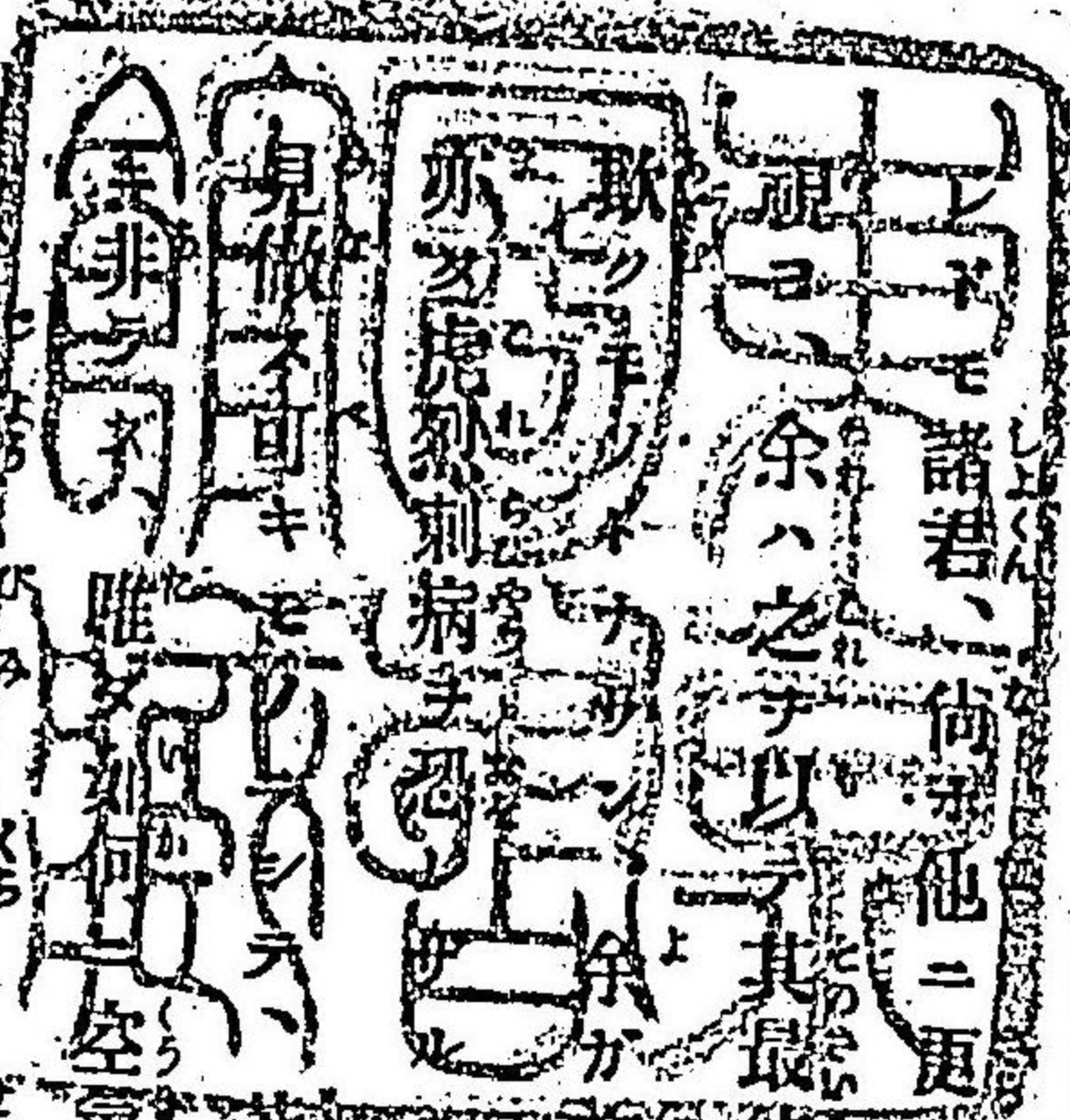
附(出產期日一覽表)

天然痘豫防注意

櫻井傳三

稿

請フ試ニ之ヲ諸衆ニ問ハシテ、諸君今日病毒ノ恐ルベキ何ヲ以テ最モ甚シトナスカ
 諸君必ズ答フルニ虎烈刺病ニ如カザルヲ以テセン、然リ虎烈刺病最モ恐ル可シ、然
 レモ諸君、尙他ニ更ニ之ヨリ恐ル可キモノハ有ザルカ、諸君請フ彼ノ天然痘ヲ
 視ヨ余ハ之ヲ以テ其最位ニ置カントスルナリ、斯ク言ヘバ諸君或ハ余ヲ以テ人ヲ
 欺クヤリトモ、言果シテ欺ケルカ諸君先ツ静カニ之レヲ思ヘ、固ヨリ余モ
 亦虎烈刺病ヲ恐ル、非ラズト雖モ、但タ虎烈刺病ハ尙ホ之ヲ一部流行病トモ
 見做ス可キモノナシ、若シ充分能ク衣食住ニ注意セバ、避ケテ之ヲ免ル能ハザル
 事非シ、唯々如何ニ空氣新鮮ノ地ニ在ルモ如何ニ飲料ノ清ヲ擇ブモ綺羅錦繡ヲ纏
 フモ滋養ノ美味ヲ食フモ千策萬方逃避スル能サルハ獨リ天然痘ヲ然リトナスノミ、
 古來計算家ガ爲シタル統計ニ依ルニ、種痘發明ノ以前ニ在リテハ、患者三人ノ中必



一人ヲ損シ、残り二人ノ中尙ホ其一人ハ必ズ癩人不具者タルヲ免レザルノ割合ナ
 リト、是レ必ズシモ無稽ノ妄説ニ非ザルガ如シ、現ニ今回ノ流行ニ際シ、我が前橋
 市中ニ於ケル初發(一月四日)以來、二月廿五日迄痘瘡ノ表ヲ示サンニ、

患者三十一人
 天然痘 二十四人
 變痘 七人

但シ全治十一人、死亡九人、現患者十二人、ニシテ則チ其二十四ニ對スルノ九ハ、
 正ニ其ノ三分ノ一強ナルニテ、益々前説ノ確キヲ致セリ、今此比例ヲ推シテ假リニ
 世界ノ人口ヲ十億ト見做サンカ、若シ種痘ノ發明ナク天然痘ヲシテ流行ヲ縱ニセシ
 マタランニハ、十億ノ人口ハ忽チ其ノ三分ノ一則チ三億ヲ滅却スベク、尙ホ殘餘七
 億ヲ二分セル三億五千萬ハ或ハ癩人トナリ或ハ不具者トナリ眼ヲ失フアリ鼻ヲ損ス
 ルアリ痘痕滿面ニ印スルアリ光散シ澤消シ容ヲ變ジ色ヲ黒フシ縱令其ノ以前ハ清絶
 三秋ノ月ノ如ク麗艶又タ二月ノ花ヨリモ美ナル絶世ノ佳人ナリ者ト雖モ玉顏忽チ

碎ケテ一朝見ル影モナキ醜婦ト化シ去アラバ爲メニ伉儷ノ適遇ヲ求ムル能ハズ一
 生ヲ不快ノ境涯ニ終ル者蓋シ枚擧スルニ遑アラザル可シ、嗚呼是レ此ノ害毒ヲ流布
 スルモノ則チ天然痘ハ虎烈刺病ノ害毒ニ比シテ尙ホ之ヨリ甚シキモノアルナリ、豈
 ニ恐ル可キノ最大一ニ非ラズヤ、
 然ルニ今日世人ノ天然痘恐怖スルコト虎烈刺病ノ如クナラザルハ、俱ニ其病毒ノ猛
 烈ナルニモ係ハラズ、一ハ其ノ傳來ノ近世ニ係ルト、一ハ其ノ傳來已ニ久シク、狎
 レテ恐レザル習慣ノ勢力アルニ之レ由ルノミ、
 抑モ天然痘ノ我が國ニ侵來セルハ、遠ク天平九年ノ昔ニアリ、其始メ筑紫ニ流行セ
 ルヤ、世人ノ驚愕實ニ名狀スベカラザルモノアリシナリ、書籍ノ載スル所、口碑ノ
 傳フル所ロニ依リテ、之レヲ案ズルニ、當時粗野矇昧ノ俗疾病誤過罪辟等尙モ身
 心ノ調和ヲ失ヒ、氣魄ノ迷亂其常ニ非ザルモノハ皆之ヲ以テ惡魔ノ所爲ニ歸シタル
 時代ナリシカバ、其ノ迷想ヲ懷ク殊ニ甚シク、浮説相ヒ喧傳シテ自カラ百鬼ヲ出シ

士人婦女子相ヒ抱ヒテ四巷ニ哭泣ノ聲ヲ絶タズ、不幸ニシテ若シ天然痘ニ感染スルモノアレバ恰モ其身大惡魔ノ憑ル所トナリ、大不潔ヲ蒙ルノ思ヒヲ爲シ、患者モ亦々懺悔シテ宿業ノ果ヲ免レント欲シ、自ラ門頭ニ赤色ノ注連ヲ張り、其頭上ニ赤色ノ片布ヲ捲キ、以テ他人ヲ近ヅカザラシムルノ標示ヲナセリ、近時ニ至ル迄古老ノ痘兒ニ被ラスニ赤色ノ頭巾ヲ以テセルハ全ク此習慣ヲ遺セルモノナリト云フ、又以テ古人ノ天然痘ヲ恐怖シテ其骨髓ニ徹スルノ一班ヲ見ルベシ、夫レ斯ノ如ク古人ハ天然痘ヲ恐怖セリト雖モ、未ダ之ヲ豫防スルノ方策ヲ立ツルニ至ラズ當時ノ慘狀臆フニ餘リアリト云フベシ、

已ニシテ其後(何レノ時代ニテアリシカ)漸ク一法ヲ案出セルモノアリ、其ハ該患者ノ中ニ就テ最モ其輕症ナルヲ擇ビ、其ノ膿汁ヲ乞ヒ探テ未痘者ニ移種スルニアリシモ、患者ハ痛ク其ノ膿汁ヲ取ラル、コトヲ嫌ヒシヲ以テ、此法固ヨリ豫防普及ノ方策タラザリシト雖モ、爾來此ノ法ニ依リ僅カニ其病毒ノ重キヲ免ル、者ハ、無上ノ

幸福ヲ得タルモノトナシ、然ラザレバ皆天ニ任シテ其ノ運命ヲ期シ、心細クモ幾多ノ歲月ヲ經過セリ、

然ルニ西曆千八百卅二年(或ハ云フ千七百九十六年ト今姑ク扶氏ノ説ニ從フ)我が天保八年ノ頃ニ至リ、英國ノ醫士ジェンチル氏、始メテ牛痘ヲ探テ人類ニ接種スルノ明案ヲ發明經驗セリ、爾來氏ノ術頻リニ傳播シ、十二年ヲ經テ嘉永二年ノ頃ニハ、已ニ其術ヲ我邦ニ傳フルニ至レリ、今其ノ傳播ノ事情ヲ記サズト雖モ、既ニ其ノ術ノ益々傳播シテ今日一般各所ニ牛痘接種ノ行ナハル、ハ、又タ已ニ諸君ノ熟知スル所ナリトス、然レドモ諸君或ハ尙ホ其ノ一ヲ知テ未ダ其ノニヲ知ラザルモノニ似タリ、諸君ノ中ニハ恰モ一度ビ種痘ヲ行ヘバ、數年數十年決シテ復タ其ノ病毒ニ感染セザル物ナルガ如ク思惟スルモノアリ、否ナ十中ノ八九ハ皆是レナリト云フモ謬言ニ非ザルベシ、然レトモ是レ誤解ノ甚シキノミ、天然痘ト雖モ稀ニハ二回以上感染スルコトアリ、況ンヤ種痘ハ一再ニシテ止ム可キモノニアラズ、若シ諸君ノ思惟スル所

ニ從ヘバ、是レ風前ニ燈火ヲ置クガ如シハ、危矣哉又危矣哉、乞フ試ミニ少シク其所
 以テ陳ベン、諸君且ツ暫ク之ヲ聽ケ、夫レ凡テ病毒ノ發生スルヤ、多クハ外因ノ刺
 擊誘引ニ依ルト雖モ、又内因ノ積ンテ感ズルニ非ザルハナシ、故ニ縱令ヒ一度ハ能
 シ其ノ病毒ヲ驅除スルモ、内因復タ久シク積ンテ、一旦外因ノ刺擊ニ會ヘバ、忽チ
 還タ其害毒ヲ逞フスルニ至ルハ、百種傳染病皆然リ、譬ヘバ之ヲ言ハ、細管ヲ通
 シテ水ヲ桶中ニ注グガ如シ、假令其水量ハ極メテ微々タルニモセヨ、間斷ナク之ヲ
 注瀉スレバ終ニハ溢レテ水流出スルニ至ラン、今桶底ニ穴ヲ穿テ一度比此ノ水ヲ迷
 出セシムルニ、若シ復タ木栓ヲ探テ此ノ穴ヲ塞ガバ、細管ノ水復タ久シク積ンテ再
 ビ溢ル、ニ至ル可シ、痘毒又此ノ如キノミ、縱シ種痘シテ一旦其毒ヲ驅除スルモ、
 歲月ノ久シキニ彌ラハ忽チ復ク感能ノ勢力ヲ新ニスルヤ、恰カモ彼ノ微々タル細管
 ノ水再ビ溢ル、ニ至ルニ似タリ、尙ホ一例ヲ舉ゲテ之ヲ證センカ、茲ニ迂濶ナル
 一農夫アリ、或年其ノ所有ノ畑地ニ唐芋ヲ作り、多分ノ收穫アルヲ見テ、翌年復タ

其ノ畑地ニ里芋ト稱スル他ノ種類ノ芋ヲ植エ附ケタリ、然ルニ秋熟ノ期ハ至ルモ毫
 モ其ノ莖葉ノ生長ヲ見ザリシカバ、農夫怪ミテ其畑地ヲ穿ツニ、豈ニ圖ランヤ、初
 メ植エ付ケタル親芋ハ子芋ヲ結バズシテ腐敗シ影モ無ク形モ無ク悉ク皆ナ消失シタ
 リ、是レ農夫ハ一旦芋ヲ作りタル畑地ハ數年ヲ經過スルニ非ザレバ、再ビ芋ノ收穫
 ナ望ムベカラザルヲ知ラズシテ、此ノ失敗ヲ招ギシナリ、然レモ農夫ガ此ノ偶然ノ
 失敗ハ恰モ能ク種痘ニ依テ天然痘ヲ豫防スルノ好適例ヲ示セリ、見ヨ其ノ唐芋ヲ以
 テ牛痘ニ比セバ、其ノ里芋ハ是レ天然痘ニ非ズヤ、又々見ヨ其ノ數年ヲ經過セザレ
 バ、再ビ同様ノ收穫ヲ望ム可カラザレバ是レ一度ノ種痘ヲ以テ數年ノ眞痘ヲ豫防シ
 得ルニ異ナラザルナリ、夫レ然リ然レモ一度種痘シテ夫レニテ安心スルヲ得ベキカ、
 否ナク々々、何トナレバ光陰流水ノ如シ、須臾ニシテ數年ハ經過スベシ、此ノ間充分
 ナル感能力ヲ積ム、恰カモ又々正ニ農夫ガ再ビ芋ノ收穫ヲ望ムノ期ヲ送り來ルナ
 シトナサズ、見ヨ況ンヤ種痘ハ一再ニシテ止ム可カラザルナリ、然ルニ諸君之レヲ

思ハズンバ是レ諸君ノ爲ス所風前ノ燈火ニ非ラズシテ何ゾ、豈ニ危キニ非ズヤ豈ニ危キニ非ズヤ、頃者或人余ヲ難シテ、曰ク、聞クガ如クンバ、天然痘ハ種痘後數年ヲ經過スルニ非ザレハ、決シテ感染スル者ニ非ズト、然ルニ余ハ接種シテ、未ダ三年ニ至ラズ、已ニ天然痘ノ感染スル所トナレリ、種痘ノ功果シテ何クニカアル、先生又辞アルヲ得ンヤト、即チ就テ之ヲ診スルニ、其形狀稍々尖リ痘ノ大小一様ナラズ、是レ天然痘ニハアラズ變痘ト稱スルモノニシテ、亦ダ一種ノ痘質ナルニハ、相違ナキモ其性至ツテ微弱ナルモノナレバ、決シテ之ガ爲メニ生命ニ關スル等ノ虞ナキノミナラズ、平癒後ニ至リ痘痕ヲ留ムルノ憂ヒダモアルコトナシ、然レモ若シ其ノ膿汁ヲ採ツテ之レヲ、未痘兒ニ感染セシムル時ハ、忽チ眞痘ニ戻ルモノニシテ、且ツ凡テ此變痘ナル者ハ種痘者ニ限り、感染スル者故若シ嚮キニ種痘セザリシナラシニハ、其人ヤ實ニ危フカリシナリ、今更ニ一例ヲ設ケテ眞痘。變痘ノ關係如何ヲ示サントス、諸君請フ、試ミニ一年其ノ畑地ニ粟ヲ作り見ヨ、而シテ翌年復タ其ノ

同一ノ土地ニ再び之ヲ蒔キ附ケタル粟ハ眞ノ粟ヲ生ゼズシテ、草粟ト變ルベシ、今復タ其草粟ヲ採リテ之ヲ他ノ新地ニ蒔キ附ケ見ヨ、其草粟ノ種ハ草粟ヲ生ゼズシテ却テ又タ元ノ粟ニ復スルヲ見ルベシ、諸君此粟ヲ以テ眞痘種ト假定セヨ、其一年粟ヲ作りシ土地ハ猶ホ種痘ヲ施セシ皮膚ノ如キニ非ズヤ、見ヨ其翌年草粟ノ生ゼシハ、是レ變痘ニ感染セルナリ、而シテ又其草粟ヲ新地ニ移スニ、草粟ヲ生ゼズシテ却テ元ノ粟ニ復スルヲ見ルハ、又恰カモ是レ變痘ノ膿汁ヲ取テ、之レヲ未痘兒ニ感染セシムルニ、變痘ヲ生ゼズシテ却テ眞痘ニ戻ルト一般ナリ、夫レ此ニ由テ之ヲ看レバ、一旦牛痘ヲ接種セルモノハ、其後數年間或ハ變痘ニ感染スルコトアルモ、決シテ天然痘ニ感染スルノ虞レアルコトナシ、彼ノ或人が非難セシ要點則チ種痘ノ功果ヲ疑フニ至リシ事情ハ今却テ偶々之ヲ保證スルノ事實トナレリ、

嗚呼古代人民ガ恐怖シテ、大惡魔トナセシ天然痘ハ今日種痘ノ術ニ依テ漸ク豫防ノ法ヲ得タリト雖モ、若シ少シク之ヲ忽シテ附スル時ハ、忽チ其魔翼ヲ張り、蕪地風

ナ捲キテ各天ニ猖狂シ、勢ヒ又々制止ス可カラザルニ至ル本年ノ如キ已ニ然リ、今新聞紙ノ報ズルトコロヲ見ルニ、「東京府下ニ流行スル天然痘ハ本年一月一日ヨリ二月二十五日迄ニ、患者二千八百四十四人ニシテ、死亡ハ五百三十三人ナリ、之ヲ去ル廿三年ノ虎烈刺ニ比スルニ、患者ノ多キコト四百ヲ超ヘタリ、以テ其勢ノ猖獗ヲ知ルニ足ルベシ」、ト醫事ノ進歩セル東京府下ニ於テスヲ猶ホ斯ノ如シ、豈寒心セザル可ケンヤ、夫レ此時ニ當リ之ヲ防壓スル、宜シク各人ノ協力セザルベカラザル所ナリ、經濟學者、或ハ較モスレバ人口不可増ノ説ヲ爲シテ曰ク、今日社會ノ疲弊ハ人口過増ノ致ストコロ、若シ此ノ儘ニ放任シテ數百千萬年ヲ經過セバ、社會ハ餓鬼ノ道程ト化シ去ル可ク、遂ニ人人ヲ食フノ慘狀ヲ見ルニ至ラントス、疾病戰爭ハ、是レ人口過増ノ好制裁ニシテ、又社會ノ最要件ナリ、天ノ時ニ疾病ヲ下ダス、決シテ厭惡スベキニアラザルナリト、此説亦タ理アリ、然レドモ人類能ク、同胞ノ四邊ニ悲泣スルヲ聽テ哀マザルヲ得ルカ、況ンヤ其ノ目前ニ斃死スルヲ見テ、能ク懷

然タラザル者アラシヤ、人情已ニ然リ、豈ニ又々此際之レガ救濟ノ策ヲ講ゼズシテ可ナランヤ、蓋シ其策トハ何ゾ、乞フ諸君先ツ余ヲシテ之ヲ述ベシメヨ、佛ハ思フ今日種痘ノ術頗ル傳播セザルニ非ザルモ、尙ホ一層之ガ普及ヲ圖リ、以テ至ク天然痘ヲ豫防シ盡スニアリト、然ラバ其ノ之ヲ爲ス果シテ如何、余亦タ思フアリ一般醫師社會ヲシテ無料種痘ヲ以テ他衆庶ニ對スルノ德義トナサシメ、衆人ハ種痘ヲ怠ラザルヲ以テ之レニ對ス、之ト同時ニ又々別ニ天然痘治療醫員ト云フヲ設ケテ、是レ天然痘流行ニ際シテノミ必用ト云フニ非ズ、傳染病（特ニ天然痘患者ノミヲ取扱ハシメ、尋常醫師ハ一切痘瘡ノ患者ヲ取扱ハザルモノトシ、若シ知ラズシテ之ヲ接スルトキハ直ニ其治療醫員ニ引渡シ、互ニ其德義ノ制裁ヲ守リテ、義務ノ如ク之ヲ信ゼシムルニアリト、是レ尋常醫師ニ在ツテハ他諸種ノ患者ニ接セザル可カラザルガ故ニ、醫師却テ感染ノ媒介ヲ爲スノ虞レアルヲ以テナリ、抑モ我が群馬縣前橋地方ニ於テハ去ル明治十八年一月以來醫師同盟シテ無料ノ種痘ヲ行フ茲ニ七星霜ニ餘レ

リ、余輩私カニ謂ラク、是レ實ニ前橋醫師社會ノ美譽ナリト、又ク私カニ以爲ラク
 諸人ハ定メテ之ニ由テ種痘ニ漏ル、ノ遺憾無カル可シト、何ゾ料ラン今回ノ流行ニ
 際シ、市人尙ホ動モスレバ種痘ヲ等閑ニ看過スルモノアリ、又々動モスレバ之ヲ忌
 避スルモノアリ、或ハ風邪ノ未ダ全ク去ラザルヲ口實ト爲シ、以テ尙モ之ヲ免レン
 ト欲スルモノアリ、緩ク緩急ヲ誤ルモ何ゾ一ニ斯ニ至ルヤ、未ダ風邪ニ因テ忽チ生
 命ヲ危フスルモノニアラズ況ンヤ種痘ニ於テヤ、又々況ンヤ痘瘡ハ人ニ非ラズ、
 風邪ノ癒ユルヲ待タザルヤ、然ルニ或ルモノハ亦々説ヲ爲シテ曰ク、天然痘流行
 ノ期ニ當テ種痘スルハ、却テ偶々之レヲ誘引シテ並發スルノ虞レアリト、是レ現ニ
 種痘ノ際婦女子ノ徃々危フミテ問フ所ナリ、然レドモ其時ニ並發スルコトアルハ、
 已ニ天然痘ニ感染シテ、アルヲ知ラズシテ、種痘ヲ施セシモノニシテ、其危篤ニ逼
 ルノ原因、或ハ種痘ニ在ルガ如ク見ユルモ、是レ偶然ノ一ノミ、豈ニ僅々數點ノ種
 痘誘引シテ以テ俄カニ斯ニ至ルモノナランヤ、試ミニ思見ヨ火機ノ正ニ伏在セルニ

當リ、一炬ヲ投ズルモ、投ゼザルモ、之ガ爲ニ火焰ノ勢力ヲ増減スルモノニ非ザル
 一ヲ甚シヒ哉世人ノ迷謬ヲ懷クヤ、尙ホ動モスレバ加持祈禱ノ力ニ依頼シテ、天然
 痘ヲ隱蔽シ、其ノ漸ク危篤ナルニ至リ、親族知己ニ苦諫セラレテ、始メテ醫師ノ門
 ニ救ヲ求ムルモノアリト雖モ、是レ實ニ痴愚ノ骨頂ナルノミ、醫師ハ別ニ社會ニ對
 スルノ義務アリ一人ノ爲メノ故ニ他ノ多數ノ患者ニ接スル能ハザルノ不便ヲ感ズル
 ナリテ、止ムヲ得ズ之レヲ謝絶スルガ故ニ、治療醫員ノ設定ナキ今日看々患者チシ
 テ死ニ至ラシムル等世間此種ノ人未ダ以テ少シト爲サズ、嗚呼何ゾ嚮キニ種痘セザ
 リシヤ、是レ獨リ前橋地方ニ就テノミ言フニ非ズト雖モ、現ニ今回各地ニ在テ天然
 痘ニ感染セル者ノ如キハ、皆悉ク種痘ヲ怠リシニ非ザルハナカルベシ、他方モ亦
 推シテ知ル可キノミ見ル可シ今日天然痘治療醫員設置ノ必用ナルコト、
 夫レ種痘ハ天然痘ニ對スル、唯一無類ノ豫防法ニシテ、而カモ安全確實ナル豫防法
 ナルナリ、然ルニ此ノ安全ナル豫防法アルニモ係ハラズ、此ノ猖獗ナル流行期ニ際

シ、之レヲ用ヒズシテ其身ヲ亡フ者ニ至ツテハ、吾輩實ニ其ノ何ノ心ナルヲ知ルニ苦ムナリ、夫レ豫防ノ方法斯ノ如ク、醫師ノ盡力斯ノ如ク、而シテ天然痘ヲ豫防スル能ハズト云ハ、其咎ハ將タ誰ニ歸セン、縱シ諸君ハ自業自得トシテ諦メモセン、害ヲ他人ニ及ボスニ至ツテハ諸君豈ニ責任ノ負フトコロナカランヤ、況ンヤ青春陽和ノ天、南園東隄、花將サニ咲ハント欲シ、黃鳥晴ヲ弄シテ、柳條篁竹ニ嘯ヅルノ、候獨リ痘瘡ニ苦惱シテ、霜庭月悲秋哀雁ノ感ヲ懷クヤ、悔ヒテ既往ヲ顧レバ、平常嘗テ身ニ疾病ナク強壯鍊ノ如クナルニ誇リシモノ、衰弱枯槁忽チ此ニ至ラントハ、思ヒ依ラザリシコトナルベシ、綺羅ノ無情ナル誰ガ爲メニ新ナルヤ、人ハ霞袂ヲ列チテ、三春ノ行樂ヲ盡ス良コトニ羨ムニ堪エタリト、此ハ是レ諸君ガ心中ノ遺憾ナラントス、若シ其觀感知己ノ心事ニ至ツテハ又タ更ラニ悲傷スベキモノアルナリ、百卉媚チ呈スル時人已ニ亡シ、之ヲ春風ニ問ヘドモ寂寞トシテ應ヘズ、起テ庭前ニ徘徊スレハ、李花雨ヲ帯ビテ愁ヲ含ムガ如ク、音容彷彿夢カ、幼カ、枝上唄々

ノ鳥聲何ツ悲シキ、地邊離々ノ草情偏ニ繁シ、終ニ舊趾ニ倚ツテ惆悵去ル能ハザラントス、而シテ是レ何ノ爲メニ茲ニ至リシヤ、無料種痘ヲ以テ醫師社會ノ他ニ對スルノ德義ナリト信ゼシムルト、同時ニ諸君モ亦タ少クモ、凡ソ五ヶ年毎ニハ必ず種痘スルコト、ナシ、殊ニ流行期ニ際シテハ決シテ之レヲ怠ラザルヲ以テ、一般社會ニ對スルノ義務トナシ、萬一接種スルモ感染セザル時ハ、年々歳々其功ヲ見ルニ至ル迄之レヲ施シテ廢セザル可シ、之レヲ要スルニ諸君ト醫師ト協力シテ以テ天然痘ヲ豫防セヨト云フコトナリ、縱令醫師ノ如何ニ盡力スルモ、若シ諸君ニシテ種痘ヲ怠ルアラシカ、到底満足ナル豫防ノ功果ヲ奏スル能ハザルナリ、昔時未ダ牛痘發明ノアラザリシ世ハ、天然痘ハ皆襁褓ノ中ニ感染セシカバ、痘瘡兒々々々ト呼ビ馴レ來リシガ、種痘ノ行ハル、今日嬰兒ハ皆接種スルガ故ニ殆ンド又タ絶エテ痘瘡兒ト呼ブベキモノヲ見ザルモ、之レニ反シテ大人ハ却テ自然種痘ヲ忽カセニスルノ傾向アリシガ爲メ、近年ニ來リ天然痘ノ患者ハ、小兒ハ至ツテ稀ニシテ大人

ノミ多ク殊ニ今回ノ流行ノ如キハ、慘又慘ヲ極メ一家數口幼兒ヲ殘シテ皆ナ其襲フ
 トコロトナルモノアリ、痘瘡姉、痘瘡兄、阿爺、阿母、亦枕ヲ並メテ臥ス、是レ
 斯ノ子此ノ親ヲ失ハハ將サニ何クニ適ントスルヤ、諸君夫レ此ニ至ツテ尙ホ種痘ヲ
 忽セニセントスル乎、嗚呼諸君嗚呼諸君若シ諸君ニシテ身ヲ惜マズンバ則チ止ム、
 又若シ慈子愛孫ノ不幸ヲ悲マズンバ則チ止ム、苟モ否ラズト云ハハ盍グ一刻モ早く
 往テ種痘ヲ施ササル、語ニ曰ク天ノ未ダ陰雨セザルニ及ンテ厠戸ノ網纏ヲ怠ル勿レ
 ト、知ラズ諸君以テ如何ト爲スヤ、

茲ニ尙ホ一事種痘者ニ注意スベキモノアリ、本來種痘後ハ時々醫師ノ診察ヲ受ク
 ルチ宜シトス、然ルニ世人ハ膿汁ヲ取ラレノコトヲ氣遣ヒテ、又々醫師ニ診察セ
 シメザル者多シ、故ニ醫師ニアツテハ其眞痘ヲ生セシヤ變痘(又化痘)ヲ生セシヤ、
 (種痘ニ眞痘變痘アリ)將々其後ノ様体ヲ知ルコト能ハズ、是レ醫師ノ最モ遺憾ト
 スルトコロナリ、何トナレバ時トシテ其丹毒或ハ膿病皮膚病等ヲ合併スル時ハ、

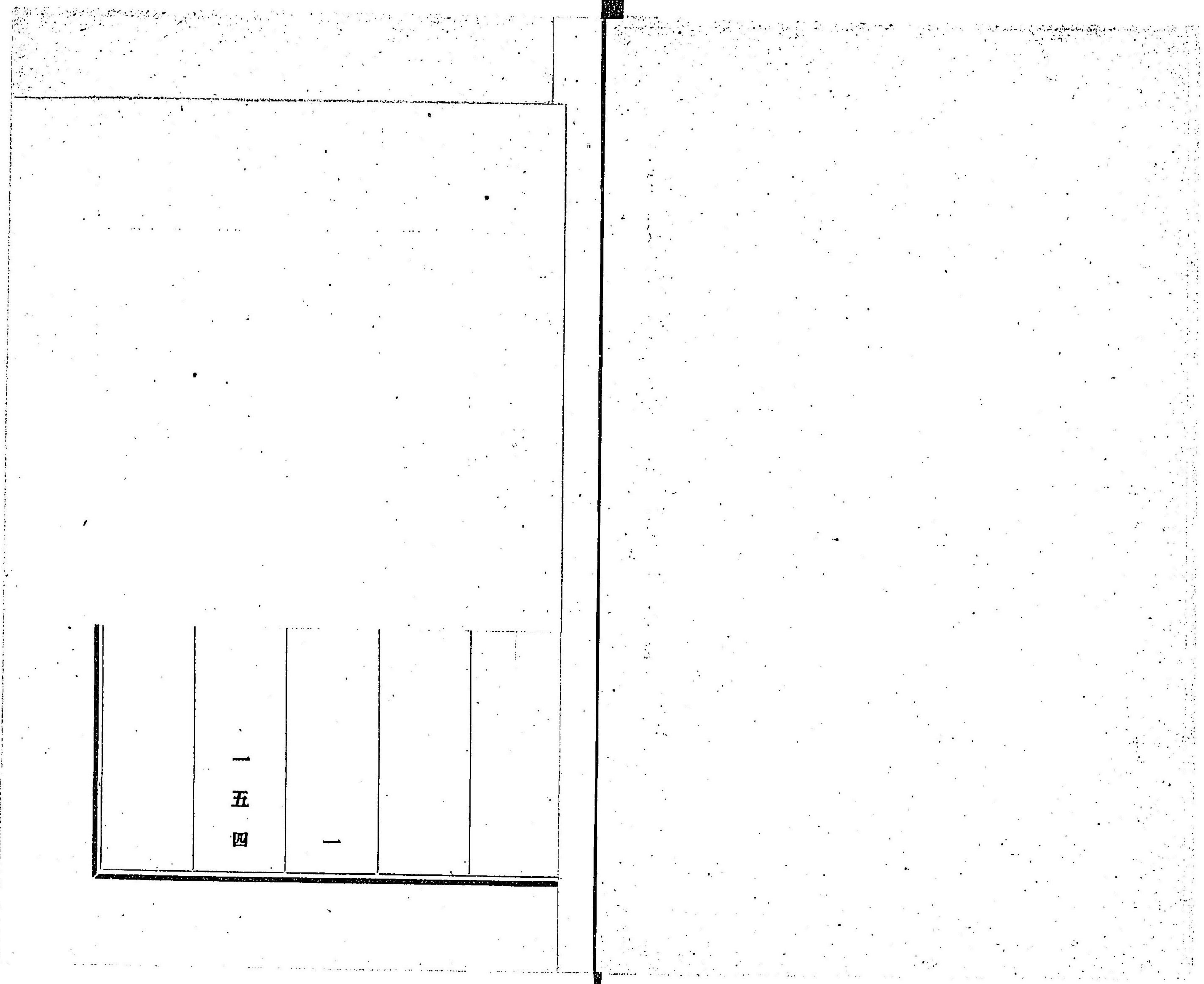
其治療ヲ要シ又々機械的ノ刺衝(則チ衣服ノ摩擦又ハ爪破等)或ハ他ノ原因ニ由テ
 壞癢セシモノ等ノ如キハ、往々不正ノ經過ヲ取り從テ豫防ノ効力ニ疑ハシキコト
 アレバナリ、今此ニ牛痘ヲ接種セル者ニシテ眞痘ヲ生セシ者、及ビ變痘ヲ生セシ
 者ノ經過ニ付キ其要點ヲ述メン

眞痘ハ、初種ニ在テハ初メ第二日ノ終或ハ第三日ノ初ニ至リ接種部ニ乳嘴疹狀ヲ
 呈シ、第三四日ニ於テ漸次水泡疹狀トナリ、第六七日ニ於テ全ク水泡トナリ、中
 心ニ陷凹ヲ呈ス、第八九日ニ至リ全ク生育シテ眞珠色ヲ呈シ透明ノ液ヲ充テ中心
 陷凹著明ニシテ周邊硬結ス、第八九日ヨリ膿熱ヲ起シ痘ノ周圍ニ赤色ノ炎ヲ發シ
 尙ホ一二日間炎症増加シ、第十日ニ至リ紅暈消失シ、第十四五日ニハ褐色ノ痂ヲ
 結セ漸次乾燥シテ黑色トナリ、第二十日ヨリ第二十五日ニ落痂シ陷凹シタル癩痕
 ヲ遺スベシ、而シテ爰ニ注意スベキハ紅暈著明ニシテ其ノ直徑二、五乃至七「ミリ
 メートル」ニ達シ、多少全身症ヲ伴フヲ可トス、全身症ハ嬰兒ハ幼童ヨリ幼童ハ

大人ヨリ輕キヲ常トス、大人ノ初種ハ經過遲延シテ紅腫蔓延シ腋下腺ノ腫大ヲ誘發スルコト多シ、或人ハ一週間遲延シタル症ヲ目撃セシコトアリト云フ、然レドモ種痘ノ効力ニハ關スルコトナシ、之レニ反シテ一兩日經過早速ナルコトアルモ紅腫十分發生スルトキハ妨ゲナシ、但シ遲延症ヨリモ早速症ニハ其効力ニ疑ナシ置クベキコト多シトス、

變痘ハ接種セル日ヨリ痒味ヲ生シ、赤色乳嘴疹狀ヲ呈シ、漸々腫大ニシテ其形隆起シ、著シク水泡期ト膿期ト不規則ナルモノナリ、水泡期トナルヤ否ヤ化膿期トナリ、化膿期トナルヤ否ヤ結痂シ、十日乃至十五日ニシテ落痂ス、之ヲ眞痘ニ比スレバ殆ンド十日許リ早ク、落痂スルモノニシテ落痂後眞痘ニ在テハ、癩痕ノ周圍ニ稍々鋸齒狀ヲ遺シテ長ク消滅セザルモ、變痘ハ之ニ反シテ癩痕平滑ニシテ毫毛鋸齒狀ヲ遺サザルノミナラズ、數月ヲ經過スルニ從ヒ漸々消滅シ絶エテ其癩痕ヲ留メザルニ至ル

普通ノ經過大略此ノ如シ諸君能ク之レヲ注意セバ大ニ參考トナル可キナリ



	一 五 四	一		
--	-------------	---	--	--

前橋市自明治廿五年十二月痘瘡患者調查表

百患 人中者	合 計	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	月 別 種 別	
														痘瘡	
變真 痘瘡	變真 痘瘡	變真 痘瘡			變真 痘瘡	變真 痘瘡	變真 痘瘡	變真 痘瘡	變真 痘瘡	變真 痘瘡	變真 痘瘡	變真 痘瘡	變真 痘瘡	痘瘡	
死全 亡治 百 〇人	死全 亡治 三 五	死全 亡治 一 九				一 〇	一 四	六 六	三 九	二 七	一 六	一 三	一 二	變真 痘瘡 數	
	同同 死全 亡治 三 〇	死全 亡治 三 〇				同同 同同	同同 同同	同同 同同	同同 同同	同同 同同	同同 同同	同同 同同	同同 同同	同同 同同	全 治 及 死 亡
						〇一	〇一 〇四	〇六 五	〇九 九	〇七 九	〇六 七	〇三 三	〇二 五	每	

前橋市自明治廿五年十一月痘瘡患者調查表

人 中者	計	二		一		月	月	月	月	月	月	月	月	月	別種別
		月	月	月	月										
變真痘瘡	變真痘瘡	變真痘瘡				變真痘瘡	變真痘瘡	變真痘瘡	變真痘瘡	變真痘瘡	變真痘瘡	變真痘瘡	變真痘瘡	變真痘瘡	痘瘡
死全亡治 百○人	死全亡治 百○人	死全亡治 百○人													變真痘瘡數
	同同	死全亡治	死全亡治				同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	全治及死亡
	三三五	三八九	一〇				〇一	〇一〇四	〇六五	〇九九	〇七九	〇六七	〇三三八	〇二五七	每月患者數
	一五四	一					一	五	二二	四八	二八	二一	一四	一四	

種痘者ノ注意

櫻井傳三

余數年間種痘接種者ヲ實驗セシニ付キ、此ニ其注意ノ概略ヲ述テ聊カ世ノ參考ニ供セントス

種痘接種後ハ凡ソ三週間程沐浴セザルヲ宜シトス、然レドモ接種後六時間ヲ經過セバ夫レヨリ三日間ハ入湯スルモ妨ナシ、第四日目ヨリ第廿一日目迄ハ入浴セザル様致スベシ、但シ半身浴ハ行フモ妨ケ無キノミナラズ、却テ之レヲ行フヲ宜シトス、殊ニ小兒婦人ハ、身体ノ不潔ニ至リ易キガ故ニ半身浴ヲ行フハ最モ必要ナリ、接種後十四五日ヲ經テ入湯爲シ度キハ、兩手ヲ頭上ニ舉ゲ種痘部ヲ湯ニ浸サル様注意スベシ、又三週日ヲ經過セザル内ト雖モ、兩手ヲ湯ノ中ニ入レ沐浴爲シ度キハ醫師ニ乞フテ其手術ニヨリ痛ミヲ覺ヘザル様痘部ヲ剝離シ而ル後入浴スベシ、三週后入湯爲スド雖モ痘部ハ爪ニテ剝離シテ入浴スベシ、蓋シ其此ノ如ク痘部ヲ湯ニ浸サ

ヲル様注意セザレバ入湯ノ爲メニ痘癩軟化セラレテ、痘毒ヲ皮膚ニ吸収シ、腺病丹
 毒等ヲ起スノ虞有レバナリ、種痘後ハ便秘スルヲ常トス、故ニ時々下劑ヲ用ユルヲ
 佳シトス、何ントナレバ便秘スルキハ皮膚病等ヲ發シ易ケレバナリ、扶氏ハ落茄時
 ニハ便秘セズト雖モ亦下劑ヲ用ユルヲ佳シト説ケリ、余ハ明治六〇七〇八ノ三年間ニ
 凡ソ六千人ノ未痘兒及ビ數千人ノ再三種者ヲ種痘シ爾來今日ニ至ル迄ニ數萬人ニ接
 種シ經驗セシガ、扶氏ノ説ノ如ク下劑ヲ用ユル方宜シキナリ、是レ皮膚ト腸トハ交
 感性ヲ有スルガ故ニ腸胃ニ汚物ヲ鬱積スルキハ皮膚ニ反應シ皮膚病等ヲ發シ易キヲ
 以テナリ、種痘經過中ハ時日ヲ經過セル物ヲ飲食スベカラズ、何トナレバ是レ血液
 中ニ惡性ニ變ズルノミナラズ腸胃ニ汚物ヲ鬱積セシメテ、諸症ヲ併發スルノ媒介トナ
 レバナリ種痘經過中ハ能ク醫師ノ命ニ從ヒ注意ニモ尙ホ注意ヲ要スルヲナリ、種痘
 シテ感ゼシキハ、小兒ニハ廣袖口ヲ着用セシメヨ、大人ニシテ勞動スル者ハ肉膈襪
 ヲ着用スベシ、之レヲ要スルニ爬搔又ハ摩擦破潰セザル様注意スルヲ要ス、嬰兒

ハ出産後六七十日ヲ經過シテ初メテ種痘ヲ施スヲ常トスレバ天然痘流行ノ際殊ニ患
 者接近ノ地ニ在ルキハ六七十日ヲ經ズシテ二週間以内ノ者ト雖モ必ズ種痘ヲ施スベ
 シ、余ハ現ニ生後二週間ヲ經ズシテ天然痘ニ感ゼシ者ヲ見シ事アリ、是ノ例ニ依テ
 見ルモ生後六七十日ヲ經過セザルモノ間々感能者アルニ因リ天然痘流行ノ際ハ生後
 日數ヲ經過セズト雖モ必ズ速ニ種痘スルヲ注意ラザルベシ、天然痘流行セザル時
 ト雖モ、出生後二ヶ月以上八ヶ月以内ニハ必ズ種痘スベシ、何トナレハ八ヶ月後ハ
 生齒期ニ掛リ小兒病ヲ發シ易キ故ニ、成ベク生齒期前ニ種痘スルヲ要スルナリ、
 種痘經過中ト雖モ平常慣用シ來リシ食物等ハ總テ禁忌スルニ及バズ、亦醫藥ヲモ要
 セズ、種痘ノ時期ハ春秋二季ヲ以テ最良トスレバ、四季中何時種痘スルモ妨ゲアル
 コトナシ、醫師ガ多ク春秋二季ニ種痘スルヲ以テ、世人ハ種痘ヲ芋種痘瘡ナド、
 稱シテ、醫師ハ閑暇ノ時期ニテ丁度芋種ヲ植付ル頃種痘スルガ故ニ、世人芋種ヲ植
 付ル頃種痘スル者ト思ヒ、之ヲ芋種ニ例ヘテ芋種痘瘡ト云ナリ、敢テ芋種ヲ植付ル

頃ニ限ルニアラズ、四季何時ニテモ宜シキナリ、決シテ種痘ヲ怠ルベカラズ

167

348

櫻井傳三著

天然痘豫防注意

(非賣品)

兼種痘者之注意

附(出產期日一覽表)

059387-000-9

特24-18

天然痘予防注意兼種痘者之注意

櫻井 伝三/著

[出版事項不明]

CBF-0252

